

埼玉親善大使レポート

渡邊千笑 ブリティッシュコロンビア州カナダ

この度は埼玉発世界行き奨学生に選んでいただきありがとうございました。私は、高校一年生の八月から七月までの約十一カ月の留学に行かせていただきました。私がこの留学を通して学んだことをここに報告します。

学校生活

カナダでは語学学校には行かず、現地の子たちと一緒に私立のクリスチャンスクールに通っていました。クリスチャンスクールならではの行事や ARS への支援マラソン等の日本の高校では体験できないような多くの事を学校を通して参加できました。一番印象的だった点は、カナダの高校のボランティア活動への手厚さです。私も多くのボランティア活動に参加しました。例えば、教会でのお菓子作りの手伝いや数学が苦手な子に放課後を使って数学を教える等のボランティアをしました。私は運動が苦手なため、スポーツを通して友達を作る機会がなかったので、ボランティア活動で現地の生徒と1対1で深く関わることができたのは大変うれしい事であり、今の英語力に大いに繋がっていると思います。ボランティアと聞くと、少し硬いイメージがあると思いますが、このような身近なことを進んで取り組むだけでも人助けになれるんだなと気づけました。

現地の授業は、一度言語の壁を乗り越えれば、比較的簡単であったように感じました。私は心理学の授業を選択しており、初めは全く意味が分からず難しくて苦手でしたが、帰国する頃には一番好きな授業となっていました。難しい単語や知らない単語は次々と出てきますが、最後には新しい単語を学ぶ楽しさも感じられました。



カナダでの暮らし

私はホームステイをしていました。そして一番感謝したい人はホストファミリーです。私のホストファミリーは五人兄弟でそのうちの三人はタヒチからきたアダプトの子たちでした。彼らはとても心暖かく、まるで私も家族の一員かのように接してくれたので、沢山会話をすることもできたし、同年代のホストシスターとは親友のような関係を築けたので、英語力だけでなく、人との出会いのありがたみも彼らと生活していく中で知ることができました。私の居たラングレーは都会の郊外にあり、まるで埼玉県のようなだったため、多くの友達に私の住んでいる県がどのようなところなのか説明しやすかったです。

